

新基地建設反対名護共同センターニュース

宮古島市長選 座喜味氏が初当選！ 「オール沖縄」と保守が共闘し、自公推薦市長の4選阻む



当選確実の報道を受け、万歳三唱する座喜味一幸氏（中央）その右は、金城徹衆院選4区予定候補



(選管最終確定) 投票率 65.64%

一方、自公陣営は、自民党本部の小野寺五典組織運動部長や沖縄出身の自民党衆院議員、下地幹夫衆院議員、経済界などが支援しましたが敗北。玉城知事と対峙する県内7市長でつくる「チーム沖縄」の会長を失う結果となりました。

当選した座喜味氏は「市民の力はすごい。市民が新しい時代や政治をつくる。市民と市長が一体となればありとあらゆる難関を乗り越えられる。新たな市政の幕開けだ」と話しました。県内11市のうち「オール沖縄」勢力は3市から4市に伸ばしました。来年秋の知事選前の前哨戦である一市を制したことで2月の浦添市長選、4月のうるま市長選、次期総選挙での「オール沖縄」候補の勝利へ弾みを付けました。

市民の力が新しい政治をつくる

17日に投票された宮古島市長選挙で、「オール沖縄会議」が推薦する新人の座喜味一幸氏(71)が、自民公明推薦で現職の下地敏彦氏(75)の4選を阻止し初当選しました。

次は浦添市長選の勝利をめざそう！

「沖縄振興策は基地とリンクせず」

屋良衆院議員がゲート前で講演

沖縄3区選出で「オール沖縄」の屋良朝博衆院議員は14日、辺野古ゲート前のテント村で講演を行いました。「沖縄振興策と基地リンク論」のテーマで1時間、時折ユーモアを交えてわかりやすく自民党政権の沖縄振興策と基地リンク論のまやかしを解説しました。

伊礼ゆうき浦添市長予定候補が挨拶



伊礼ゆうき浦添市長予定候補が14日、ゲート前で挨拶。「辺野古の海も浦添の海も自然のまま子供たちに手渡しましょう」と訴えました。写真=屋良氏(左)と伊礼氏

18日のゲート前では「喜びの拍手」



開票翌日の18日朝、辺野古ゲート前には約40人が結集。司会の瀬長和男県統一連事務局長が「宮古島市長選でオール沖縄が勝利しました」と報告すると参加者は大きな拍手で応え、喜びを共有しました。

辺野古住民訴訟「国の違法許さない」

裁判闘争の成果と展望の学習会

辺野古住民訴訟の原告団と弁護団は15日、那覇市内で「住民訴訟の成果と展望」の学習会を開催、50人が参加しました。赤嶺朝子弁護士と北上田毅氏(平和市民連絡会)が報告しました。

赤嶺氏は「原告の適格性を認めさせるなど住民の頑張りが裁判所を動かしている。裁判の傍聴が大事だ」と訴えました。北上田氏は「国は90年までの軟弱地盤を改良する技術もなくでたらめ

な設計変更申請を提出している」と報告しました。第9回口頭弁論は、1月26日(火)14:00開廷。13:15~城岳公園集合です。



「オール沖縄」が勢ぞろいし大宣伝行動

当初、この日街頭演説会を計画していましたが、コロナ感染症の影響で密を避けての宣伝行動・スタンディングに変更したものです。選対本部長の当山勝利県議(社大党副委員長)が司会し、島袋恵佑氏(共産)、喜友名智子氏(立憲)、翁長雄治氏(にぬふあぶし=保守中道)の各県議が訴えました。「オール沖縄会議」に結集する全党派が参加する伊礼陣営最大の宣伝行動となりました。通行人やドライバーから「頑張って!」と激励の声が寄せられました。



浦添市初の女性市長を!
浦添市長選(2月7日投票)で「初の女性市長実現を!」と、「オール沖縄」の大宣伝行動が17日、浦添市内で170人の参加で行われ市民の注目が集まりました。